別紙様式２（高）

平成31年度（2019年度）　県立水戸第二高等学校自己評価表

目指す学校像	民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい資質・能力を身に付け，国際的な視野をもった社会に有為な人材の育成を図る学校。 〇叡智･･･優れた知恵を獲得し，物事の事実や審理を探究する 〇仁愛･･･情け深い心で様々な人たちと互いに尊重し合って交流する 〇創造･･･豊かな発想をもちこれまでにない新たなものをつくる

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
1 家庭での学習時間が十分に確保できていない生徒もいる。自分の弱点を知り，その克服に自ら取り組む姿勢を構築するためには，課題の量と質の精選が必要であり，自主的で継続的な学習活動を計画的に実践できる力を身に付けさせる必要がある。また，理科的素養と文化的素養の両方を併せ持ち，自ら正しい判断ができる力を身に付けさせる必要もある。 2 平成30年度卒業生の国公立大学合格者は104名であった。多くの生徒が高い志をもって進学を希望している。そのためには，大学で何を学ぶのか，それをどのように活用して自分の未来を切り拓いて行くかを養う取り組みや受験環境の変化を的確に捉え，教育課題と授業改善を一体的に推し進める必要がある。 3 平成30年度のスマホ家庭のルールづくり運動において，家庭のルールを守っている1年生の割合が86％（2年生54％）であった。また，ネット上のみのつきあいの人と情報のやりとりをした生徒もいた。この結果から民主主義の理念を理解し，多様性を認め合いお互いを尊重できる人間関係を構築する必要がある。また，自らの命，他者の命を互いに尊重し合える力を養う必要や自己肯定感を高める必要もある。 4 80％を超える生徒が部活動に参加し，平成30年度は2つの運動部が全国大会に出場し，県高校総合体育大会女子の部で県立高校最上位の総合第6位となった。文化部は6つの部が全国大会に参加した。部活動の質的充実を図るとともに，学習時間と部活動の両立を目指しつつ，部活動等で抜けた学習について，学習を保証する仕組みを考える必要がある。	1 進路希望の実現とキャリア形成を視野に入れた教科指導	① 個に応じた指導と評価の充実により，確かな学力の定着，生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。 ② 各教科の授業における発問を工夫することにより，生徒を「主体的で，対話的で，深い学び」へ誘う。 ③ 進路指導（キャリア教育）を通して生徒自らが生き方を主体的に選択できる力を育成する。	B B B	B
	2 主体的・能動的な学習習慣の確立	① 各教科で課題の精選を図り，生徒自ら力を付けるのに必要な課題を選択して取り組むようにする。 ② 学び方を習得する活動を充実することにより，生徒が自ら計画し，実行した結果を振り返る力を育成する。 ③ 各教科における言語活動を効果的に取り入れ，生徒の学ぶ意欲の一層の育成を図る。	B B B	B
	3 特色のある教育活動の展開（学習面） ・ＳＳＨ指定を効果的に活用 ・国際理解教育の推進	① 教科横断的な取組へ移行するための各教科の連携についての工夫を考える。 ② 学校全体で取り組むことで，中高一貫校にない独自な取組を生み出す。 ③ 指導方法を工夫することにより，生徒が自ら見通しをもって学習できるようにする。	B B B	B
	4 各種活動の積極的な展開（特別活動） ・生徒会活動 ・部活動 ・ＨＲ活動	① 多様性の社会を生き抜く力を身に付けさせる取組を生み出す。 ② 周辺に中高一貫教育校ができても，そこでは真似のできない特色となる部活動を構築する。 ③ 自治活動の充実により，生徒の自律の精神と奉仕する心を育成する。	B A B	B
	5 生徒を見据えた生徒指導 ・安全教育の徹底 ・健全な生活習慣の確保	① 自らの命は自らで守るという精神を育成する取組を構築する。 ② 教育相談機能の充実を図り，いじめや問題行動等の未然防止と生徒自身の自己解決能力を育成する。 ③ 最後までやり抜く力を育むとともに，失敗から学ぶというプラス思考を意識して育成する。	A B A	A
	6 安全な学習環境の提供 ・校内の安全点検の充実 ・危機管理の徹底	① 校内点検を充実させ，危険箇所の早期発見に努め改修を図る。 ② 教職員間の「報告・連絡・相談」の体制を常に確認し，責任の所在を明確にする。 ③ 生徒からの意見を積極的に取り入れながらまさかのときに備える体制を構築する。	B A B	B
	7 積極的な広報活動の実施 ・報道機関等への資料提供 ・学校webページの充実	① 地域の小中学校との連携した教育活動を展開することで，地域の高校としての存在意義を高める。 ② 通学する生徒が自分の学校に愛着を持てるように，良質な教育活動を展開し，地域や保護者に広報していく。 ③ 生徒会や委員会活動を周辺地域や小中学校に積極的に広報する。	B A B	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。(１①，３③)	・年度初めに，生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに，毎時間，綿密な授業計画を作成し，それに基づき，生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。	B	B	・主体的・対話的で深い学びの視点から，授業内容の工夫改善に努める。
			・常に授業内容の点検を行い，より一層の授業改善に努める。	A		
			・より効果的な観点別学習状況の評価法を研究，推進する。	B		
教科	国語	１ 基礎学力の定着と応用力の伸長(1①，②)	・到達目標の達成度を各単元毎に確認し，事後の指導の改善を図る。 定期的な小テストの実施(古典基礎の定着と応用発展・現代文の読解力・語彙力養成) ・他者との関わりの中での学び合いの機会（A・L)を設けることで読解力の向上を目指す。	A	A	・表現力の向上をどのように達成するのか →小論文指導の効果的な実施。 ・小論文を書く際の材料を如何に増やすか→新聞や新書に進んで触れさせる機会，指導の必要性。
		２ 表現への興味・関心及び表現力の向上(2③)	・小論文・読書指導の推進 図書部・学年と連携しての小論文指導講演会の実施。	B		
		４ 自学自習力の養成 (2①，②)	・適切な自学用の教材の利用 現代文・古文・漢文の副教材やワークブックを使った，家庭学習の習慣化の指導。 教科書で学習した作者の他作品の紹介をし，読書活動につなげる。	A		
	地歴・公民	１ 授業内容の工夫・充実 （１①②③，２③)	・課題の発見と解決に向けたアクティブ・ラーニングを取り入れ，探究型授業の工夫を図る。 ・センター試験・私大記述に対応するため授業内容，副教材の精選や進度等の調整をする。 ・主権者教育推進のため，時事問題を取り入れた授業展開を図る。 ・指導に生かす評価の工夫改善に努める。	A	B	・新課程に対応するため調査・研究を進めていく。 ・生徒の実態や新課程への移行などを踏まえて教育課程の検討は，今後も続けていく必要がある。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善。
		２ カリキュラムの検討継続 (3①②③)	・ＳＳＨ指定校として，文系科目におけるきめ細かな指導の検討を継続させる。	B		
		３ 視聴覚機材の有効利用 （１①②)	・各分野における視聴覚教材の積極的活用と活用方法の検討を継続させる。	B		
	数学	１ 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。 （１①②２③)	・（１年）教科書・問題集を活用し基礎計算力の充実を図るとともに，自主学習ノートを提出させ，家庭における学習習慣の確立を図る。また，確認テストを実施し基礎力の定着を図る。 ・（２年）問題集を活用し，家庭での学習習慣の定着を図る。全生徒に数学Ⅱ＋Ｂを最後まで取り組む姿勢をもたせる。また，定期考査等を活用し，基礎・基本の定着を図る。 ・（３年）問題演習の際，各項目の基本事項を確認し，テストを行うなどして基礎力の定着を図る。特に数学Ⅲ履修者には数学ＩＡⅡＢの既習事項の問題集を活用し，基礎力の定着を図る。	A	B	基礎・基本の充実と さらに，思考力や判断力をどう向上させていくかが今後の課題である。
		２ 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。 （１③２①②)	・（１年）確認テストや定期考査の結果を活用し，学力の強化を図る。また，提出させた自主学習ノートやプリント等を活用し，個別に指導助言を行う。 ・（２年）ノートやプリント等の提出を通して個別に指導助言を行う。また，各習熟度別に希望者課外を実施し，より高い学力への到達を目指す。 ・（３年）ノートやプリント等の提出を通して，個々の能力に合わせて個別に指導助言を行う。また，習熟度を考慮した平常課外を行い，個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。	B		
		３ ＳＳＨ事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし，その指導法を実践・研究する。 （１③３③)	・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき，指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。	B		
	理科	１ 自然科学への興味・関心を高めるとともに，科学的に探究する能力と態度を養成する。 （１①②，２①②③，３③)	・自然の原理・法則の理解を深めたり，思考力・判断力・表現力を身に付けたりするために，探究的な授業形態を通して個に応じた指導や創意工夫して実験・実習を行う。 ・身近な科学的事象を認識させることで，学習への動機付けを図るとともに，科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して，自発的に学習する習慣を涵養，定着させる。	A	A	・探究的な授業をさらに充実させる。 ・科学的思考力をさらに深める。 ・教科横断的な取り組みを進める。
		２ スーパーサイエンスハイスクール(ＳＳＨ)事業を推進する。 （３①②③，５①③，７①)	・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより，課題研究を円滑に進める。 ・研究手法や科学的思考力など必要な能力を身に付けさせ，研究者の基盤作りを図る。 ・ＳＳＨについて，教員間の共通した理解を図り，教科横断的な取り組みを通して，実践的な活動を円滑に進める。 ・「小・中学校サイエンスサポート」を積極的に推進し，地域の教育活動と連携し，科学への夢を育むため教育支援を行う。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	保健	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。（1①）	・評価テスト問題の内容を検討し，授業改善を含め，身に付けさせたい学力についての評価を充実させる。	A	A	・外部講師による「がん教育」 の充実や， 命の大切さ・自己の生き方を考えさせるような内容を取り入れていく。
		2 「生きる力」を身に付けさせる授業を実践する。(2①②)	・グループでの課題学習をはじめ，実習を取り入れた授業(アルコールパッチテスト・心肺蘇生法)や視聴覚教材やメディアの活用により，より良い行動の選択ができるように授業を実践する。	A		
	体育	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(1①②)	・種目ごとの観点別評価活動の具体化と，授業改善を含め，学年の進行に合わせた，身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。	A	B	・怪我人を減少させるため，用具の利用を上手くしながらの指導方法を模索していく。そのために,新たな用具を購入したり，動画を撮影・確認しながら技術の向上をが出来るようにタブレットを使用しての展開方法を更に取り入れていく。
		2 授業で敏速な行動を身に付けさせる。(5①)	・集団行動の実践を通して，日常生活においても敏速に行動できるようにする。 ・体育用具・設備の安全管理の徹底	B		
		3 体力・運動能力の向上及び生涯スポーツへとつながる授業を実践する。（1③)	・種目の特性に触れ，個人及び集団の活動を通した課題解決学習の実践により，体力・運動能力の向上を含め，生涯スポーツへとつながるようにする。	B		
	芸術	1 個性豊かな人間性と情操の育成（2①②)	・感性を高め、生涯にわたって芸術を愛好する心情をはぐくむために，近隣の美術館やホールと連携して鑑賞指導の質を向上させ，課題解決学習の設定によっ て総合的に創造力や表現力を涵養する。	A	B	芸術三科の結びつきを強め、生徒の実態に応じて進路実現ができるように情報交換を積極的にする。
		2 基礎表現力の育成と学習環境の整備（4①5③)	・芸術三科間の協力を推進し，生徒の実態に応じた丁寧な指導により，基礎表現力をつけ，意図に応じた表現方法、表現技法を創造に生かす。また学びやすい学習教育環境となるよう整備に努める。	B		
		3 個人の能力・進路に応じた指導（1①③)	・芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ，芸術系大学進学希望者の進路を実現させるための教育課程や年間計画を立案し，個の能力・適性に応じたきめ細やかな指導を行う。	B		
	外国語	1 外国語学習の意義を認識させ，英語学習に対する意欲を高める。(1①②, 2①②③)	・英語の基礎学力の定着と向上を図る。	A	A	・苦手意識を持つ生徒のケアを厚くし，成績の２極化を防ぐ。 ・英文の構造を見極めながら，文章を読む習慣をつけさせる。
			・ＡＬＴとのＴＴやディベート活動を通して，英語を用いて情報を整理し，論理的思考に基づいたコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する。	A		
			・個人の能力，希望進路に対応したきめ細かい受験指導をする。	A		
			・センター試験のリスニングへの対応の充実と英作文指導を継続的に行う。	A		
			・英語表現やサイエンス・イングリッシュの授業を通して，英語による基礎的なプレゼンテーション能力を育成する。	A		
	家庭	1 社会の変化に対応した指導の充実(1①)	・最新の情報を精選して教材として使用する。	B	B	・グループワークに適する教材を更に多く作成し，より有意義がグループワークができるようにする。 ・レポートや作品の期限までの提出が，今年度は徹底したので，次年度も本年度と同様の指導をしていきたい。 ・スクールプロジェクトは関東ブロックのローテーションでこの先数年間は全国大会には繋がらないが，ＳＳＨとの連携を密にして，研究活動と発表は続けていきたい。
			・衣食住の他，保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる。	B		
		2 実験・実習，体験学習の工夫(2②，3③)	・実験や実習，実物の提示，グループワークを多くをり入れ，限られた環境の中で，１回でも多くの実験・実習を取り入れ，体験を通して具体的に学 習させる。	B		
			・被服製作作品，課題プリントレポート等を期限までに提出させる。	A		
			・調理実習時の身支度を徹底させ，安全，衛生面に十分留意するよう指導をする。	A		
		3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進（2②，7①)	・ホームプロジェクトの意義を理解させ，実践させる。	B		
			・家庭クラブ全国大会発表校として，さらに研究内容の充実を図り，全国大会で昨年度以上の評価を受けられるように，計画的に発表準備を進めていく。 ・ＪＡや地域の小学校及び大学とのつながりを継続させながら，次年度も研究発表を行うことができることを目指し，新チームでの研究活動を開始する。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教　務　部	1　ＳＳＨの研究題目を踏まえた教育課程の編成 (1①②③, 2①②③, 3①②③)	・ＳＳＨの研究成果を活かし研究題目を踏まえた教育課程を編成する。 ・教育課程の自己点検，自己評価を通して，水戸二高の将来像を見据えた，新教育課程のの研究に努める。 ・教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。 ・「総合的な探究の時間」の円滑な運営と効果的な内容の選択をする。	B	A	・ＳＳＨ等の特色を生かした新教育課程の作成 ・保護者，地域，中学生等への積極的な情報発信 ・ネットワークセキュリティ等のさらなる強化 ・授業改善のための研修等の実施
	2　各分掌間の円滑な連携と授業時間の確保 (3③)	・校務分掌の円滑な運営と連携を図る。 ・学校行事等の精選を行い，授業時間を確保する。 ・週ごとに授業交換を行い，自習時間のない時間割を編成する。	A		
	3　学校評価の研究 (1①, 2③)	・保護者・生徒への授業アンケートを実施する。	A		
	4　情報管理の徹底と安全性の研究と成績処理(6①)	・校務支援システムが円滑に運用できるよう努める。 ・ファイルサーバーのセキュリティーについて研究し，スムーズな運用に努める。	A		
	5　ハード・ネットワーク，視聴覚機器の管理(6①)	・各教室，コンピュータ教室，職員室等のコンピュータの維持管理に努める。 ・消耗品の在庫の管理に努める。 ・ネットワーク上のトラブルに速やかに対応できるよう研究する。 ・視聴覚設備，放送室・体育館の放送設備の管理，運営に努める。	A		
	6　外部への積極的な情報提供(7①②③)	・学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。 ・ホームページの更新頻度を維持し，さらなる充実を図る。	B		
生徒指導部	1　基本的生活習慣の確立 (5)	・身だしなみを整え規則正しい生活ができるよう，毎朝のあいさつ運動や登校指導を通して「声かけ」を行う。 ・公共マナーの向上を目指し，マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登校指導を行い，生徒一人ひとりの規範意識を高める。 ・スマホ家庭のルールづくり運動を行う。 ・生徒会と協力して，生徒の生活について考える。	A	A	・引き続き，身だしなみやあいさつ，公共マナーやスマホの使い方など基本的生活習慣の確立に努める。 ・不審者被害や痴漢被害が多く，交通安全と合わせて，生徒の安全を守る指導を推進していく。 ・いじめを絶対に許さない。 ・クラスに馴染めず不登校傾向の生徒に対しての支援を行う。
	2　交通安全指導の推進 (5①)	・茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し，自転車の安全運転指導や交通講話を実施する。 ・交通安全週間に合わせて生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。 ・自転車安全点検（２回）を行う。	A		
	3　いじめ防止・早期発見 (5②)	・被害調査（３回）を行う。 ・いじめ予防授業を行う。	B		
特別活動部	1　自主的活動の育成 (４①③)	・毎日の生活の中で自己を見つめる姿勢が身に付くよう働きかけていく。 ・生徒会を中心に，学校行事・委員会活動・リーダー研修会(前後期２回)・ホームルーム活動・部活動等，積極的に取り組み，リーダーを育成する。	A	B	・社会や生徒の変化に伴い各種自主的活動の目的を再確認し，活動内容や取り組み方を修正する。 ・過去の各種データの整理をする。
	2　奉仕の精神の涵養と環境に対する意識の高揚 (４①③)	・ボランティア精神を養うため，校外のイベントなどにも積極的に参加する。 ・環境問題に継続して取り組み，節電・ペットボトル・キャップ回収等を行う。	B		
進路指導部	1　進路に対する意欲を高め，学習時間の確保と自学自習力の育成指導 自学自習の週平均時間数 ［３年］30時間以上 ［１，２年］20時間以上 （１①③，２②）	・進路講演会をはじめ，キャリアガイダンス・大学見学会・大学模擬授業など，これまで実施してきた行事の継続と内容の深化を図る。 ・全学講座（年間13日）や課外の計画・実施。特に，長期休業中の課外については生徒の要望を踏まえて，柔軟且つ弾力的に運用する。 ・学年別に作成した『進路ノート』を効果的に活用し，自学自習の習慣を定着させる。また，幅の広い情報提供を行い，生徒の進路希望の視野を広げる。 ・自学自習の習慣化を図るために，集中学習会を1学年と2学年で実施する。特に2学年においては，早めの受験体制への切り替えを図っていく。	B	B	・従来の進路関係の行事について，さらに意義のあるものとなるように，検討する。 ・全学講座については，回数ありきではなく，学校全体の行事計画を踏まえた適正な配置に留意したい。 ・受験体制への切り替えを図る上でも，生徒のメンタルな面での指導も欠かせない。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導部	2 進路目標の設定および学習意欲の喚起による学力向上(１①②③，２①②③，３①，７①) 模擬試験での成績 ［３年］進研模試５教科総合学年平均偏差値 55以上 ［２年］進研模試３教科総合学年平均偏差値55以上 ［１年］進研模試３教科総合学年平均偏差値57以上	・授業中心の学習習慣の定着を確実なものにする。２年次までに英語・数学・国語の３教科の基礎力を養い，３年次で地歴公民や理科の学習を中心に据えるよう，３年間を見通した学習の在り方を指導する。 ・生徒の適性や興味関心を踏まえた上で，適切な文理選択ができるように情報を提供するなど学年に協力する(特に１学年)。また，学年との協力を密にするために学年会などに同席する機会を増やす。 ・進路資料・進路のしおり・個人面接用資料の作成と頒布，活用を推進。 ・卒業生から聞く学習法（ＯＧインパルス）を２年生対象に開催するが，可能な限り１年生にも機会を拡大する。 ・保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り，生活・学習面のバックアップ体制を築く。	B	B	・授業を中心とする学習習慣の定着は，今後も継続すべきである。 ・保護者に対する進路情報の提供や進路関係の講話の実施，あるいは中学校に対する説明会については，今後も積極的に行いたい。 ・苦手教科の克服，受験科目を絞る等，安易な方向に流れないような持続的な指導が求められる。 ・生徒一人一人の個性や，興味・関心等を踏まえて，数値や偏差値にとらわれない進路指導を徹底させたい。 ・生徒の学力の差は広がっているために、従前以上にそれぞれの個に応じた対応が求められる。 ・共通テストについては，形式はセンター試験と変わらないので，焦ることなく冷静に対処すれば問題ないと思われる。
	3 生徒の第１志望実現のための援助促進,難関私立大学を含む国公立大120名以上合格の達成（１①，３③，５③）	・校外模擬試験の分析会や教員対象の進路研修会を実施する。 ・生徒の個に応じて，推薦入試活用の助言を行う。 ・大学入試センター試験出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施。 ・各学年の小論文指導担当と連携し小論指導説明会開催と小論模試への援助をする。 ・新学習指導要領の実施，大学の学部学科改編など，本校を取り巻く環境の変化に対応し，最良の教育課程を絶えず模索する。 ・共通テストに向けて，万全の準備態勢を整えると共に，各大学の受験情報の提供に努める。	B		
図　書　部	1 「読書センター」としての機能の充実を図る。(2③，4①)	・前期・後期１回ずつ校内読書週間を実施し，LHR読書会を開く。 ・LHRを利用しての読書活動を，年１回実施する。 ・図書等の資料の充実に努める。 ・図書委員会読書会を年２回程度企画，実施する。	B	A	・図書部，図書委員会としては十分読書センターの機能充実の努力をしているのだが，現実として生徒の読書量は増えてこない。次年度は実祭の生徒の読書量が増える工夫，アイディアを考えていきたい。 ・ホームページに図書館の専用ページを作る計画はあるのだが，なかなか進まない。これを是非実現したい。
	2 「学習・情報センター」として資料の提供および利用指導を行う。(1②，1③，2②，3③，5③)	・３号館１階学習室の学習情報センターとしての活用促進を図る。 ・図書館を利用した総合的な探究の時間に変った「道徳」(STARTプログラム)を補助する。 ・探究「道徳」(STARTプログラム)のマニュアル化を完成する。 ・図書等の資料の充実に努める。 ・使用全教科書を閲覧できるようにしておく。 ・職員からの図書購入希望に随時対応する。 ・図書館内に教科学習資料の展示を適宜行う。 ・LHRのための視聴覚資料の充実を図る。 ・図書館を利用する授業に対し，資料利用のオリエンテーションを行う。 ・新任者，新入生に対し，図書館利用のオリエンテーションを行う。 ・小論文の指導における資料提供に積極的に協力する。	A		
	3 生徒図書委員会の充実を図る。(4③，5③)	・毎週定例の図書委員会を開く。 ・生徒図書委員の校外研修を行う。 ・中央・水戸地区の研修会に積極的に参加する。 ・図書委員による特集を組んだ本の展示や読書会を定期的に行う。 ・生徒図書委員による図書の選定，店頭選書を行う。 ・「図書館便り」「図書館報」の発行を行う。	A		
保健厚生部	1 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備（６②)	・ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。 ・教室内の整理・整頓と清掃の徹底をはかる。 ・防災対策を含め，校舎内外の安全点検を行う。	B	B	・校舎内外の清掃の徹底と環境の整備については，次年度も継続していく。 ・健康の保持・増進について今年度はＳＣの回数が増え，充実できたが学校の取組としても考えていく必要がある。 ・奨学生募集については，保護者・担任へも徹底していきたい。
	2 健康の保持・増進（５②)	・心身の健康状態の把握に努め，適切な指導・援助を行う。 ・心身の相談活動を推進する。	B		
	3 奨学生関連事務の的確な運営	・奨学生募集の情報を確実に伝達する。 ・提出書類作成手続きの指導を適切に行う。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
渉 外 部	1 ＰＴＡ活動を円滑に実施する。（7②）	・関係する分掌や学年と連携，協力して円滑に実施していく。 ・ＰＴＡ役員及び各種委員会委員と学校との協力体制の構築に努め，「ＰＴＡだより」をとおして教育活動を家庭に伝える。	A	A	・今年度の入学生からＰＴＡ等の入会申込書を提出してもらうことにした。次年度も引き続き実施したい。 ・「ＰＴＡ規約」及び「後援会会則」の一部改訂に向けて文言を整えておく。
	2 保護者との連携のもとで生徒の学習環境の整備を進める。（6）	・保護者からの要望に耳を傾けながら，ＰＴＡ役員間の信頼と連帯強化を図る。 ・学習諸活動の環境整備，および学校活性化のための提言を行う。 ・ＰＴＡの諸活動の記録を蓄積し，今後の活動や研究発表等に生かす。	B		
	3 同窓会「秀芳会」との連携	・120周年記念事業に向けて更なる連携を推し進め，本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。	A		
ＳＳＨ部	1 科学教育プログラム 自然科学の世界への導入としても位置づけ，発想力や問題解決力等の基盤となる興味・関心，知識・理解，科学的思考力などを育成 (1237)	・関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し，科学的思考力，表現力等の向上に努める。 ・ＳＳＨ講演会や数理科学セミナーを開催し，科学的教養及び学習生活に対する意欲の向上を図る。 ・自然科学への導入として，１年生希望者を対象に「自然科学体験学習」を実施し，自然及び環境に対する知識と理解を深める。併せて発表会を実施することによりプレゼンテーション能力を高める。 ・各種講演会や体験活動の広報を行い，科学的素養の向上に努める。 ・事業の実施においては，全職員の協力のもと推進する。	B	B	・事業の実施について，全職員の協力体制をさらに高める。
	2 科学研究プログラム 科学技術を牽引できる女性としての発想力や問題解決力等を育成(1234②7)	・関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し，知識・理解及び科学的思考力等の向上に努める。 ・「ＳＳ課題研究」「科学系部活動」を行い，研究に対する主体性や科学的実践力，情報収集力及びプレゼンテーション能力の向上を図る。 ・「サイエンスイングリッシュ」・「海外セミナー」を行い，実践的英語力，国際性を育成する。特に「海外セミナー」では，アメリカで活躍する研究者の講演，現地高校生との交流及び相互プレゼンテーション等により，女性科学者育成の基盤づくり等を行う。 ・事業の実施においては，全職員の協力のもと推進する。	B		・課題研究における科学的思考力をさらに深める。 ・SS課題研究のモチベーションを課題研究をしていないクラス生徒に広げる。
	3 水戸二高SSHサイクル 研究者・技術者としての卒業生の活用。小・中学校に対する科学への夢を育むための教育支援」の研究と実践（1③3②③7）	・「ＳＳ課題研究」や「科学系部活動」等で，卒業生の協力。助言をもらう。 ・小・中学校，茨城大学及び水戸市次世代エキスパート育成事業において，本校生がインタープリターとして小・中学生に体験実験の指導を行い，科学に興味関心を持つ子供たちの裾野を広げる。 ・本校ＳＳＨ事業に関する広報活動を進める。	B		・卒業生の協力の和を広げる。
国際理解教育部	1 異文化理解教育の推進 (1③3①)	・国内外で国際交流や協力活動をしている識者の講演会を実施する。 ・国際理解の文化活動への参加を促す。 ・多様な文化や価値観を持つ人々との交流会への参加を促す。 ・日本の伝統・文化の良さを学び，発信する態度を育成する。	B	B	・海外研修参加生徒による波及効果を高める ・ユネスコスクールへの加盟と校内外の活動の充実 ・ 国連SDGｓへの涵養 生徒の調べ学習と発信する能力の育成
	2 ユネスコスクールの加盟 (2③3②)	・国連「持続可能な開発目標(SDGs)」１７項目を浸透させ，将来の社会参加につなげる。 ・教科横断プログラムの推進（スタートプログラム・環境科学・国際交流）と連携に努める。	B		
	3 グローバルリーダーの育成 (3②③4③)	・グループワーク，ディスカッション（グローバル・カフェ等），プレゼンテーションを実施し，世界の諸課題に対する関心と理解力を深める。 ・海外研修を実施し，国際的な視野を育成する。 ・海外進学および留学への支援を積極的に行う。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第１学年	１ 高校生としての生活習慣の確立(４①③５①②③６①))	・進路ノートの活用や個人面談を通して，高校生として自立し，かつ自律的な生活スタイルの確立を促し，高校生活を有意義に過ごせるように支援する。 ・公共マナーや社会ルールを身につけ，品位ある行動がとれるよう指導する。 ・清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ，安全で落ち着いた学習環境を作る。 ・特別活動等への積極的な参加を支援しながら，一人一人の好奇心を高め，自信と勇気を持った生徒を育成し，協調性やリーダーシップ等を育てながら，継続することの大切さを伝える。	A	B	・学校の中心となり，リーダーシップを発揮して，一層自立的な生活が送れるような成長を促す。 ・計画的に学習しながら，自ら課題を見つけ出し，主体的な態度で学習に取り組むことができる生徒の育成に努める。
	２ 学習習慣の確立と学力向上(１①２①②３③)	・思考力・判断力・表現力の育成を常に意識しながら，各科目の授業以外の様々な場面でも学び方の確立を働きかけ，個々の学習上の悩みに対応しながら，自発的に学習活動に取り組めるよう支援する。 ・各教科の課題を把握し，生徒自らが力を付けるために必要な調整や精選を行う。 ・道徳における探究活動を通して，資料を活用する力やプレゼンテーション力を養成する。	B		
	３ 進路意識の涵養(１③)	・ＬＨＲ・個人面談や，進路講演会・キャリアガイダンス・大学見学会などの進路の行事を通して進路意識を高め，個々の夢や目標を早期に明確化し，主体的な適切な文理選択ができるようにする。	A		
	４ SSH・国際理解教育の推進(３①②)	・SSHに関する自然科学体験学習，課題研究発表会，講演会等への積極的な参加を促し，個々の可能性の発見や伸長のための支援を続ける。 ・国際理解のための講演会や海外研修を通して異文化を理解することで，多様性を受容し，グローバル化する社会の中で自己を活かして生きる姿勢を育てる。	B		
第２学年	１ 進路目標の明確化(１③)	・進路講演会・大学模擬授業などの行事を検討して，より効果的に実施し，進路意識の向上を図る。 ・進路指導部と連携を密にし，的確な進路情報の提供に努める。 ・「個人面談」を充実させ，生徒の適正や希望の的確な把握と助言に努める。	A	B	・希望と適性にあった進路実現を目指す。 ・学習，進路以外の悩み等にもより一層気を配って，欠席や不登校に注意する。
	２ 生活習慣・学習習慣の確立と学力向上(２②５③)	・学習記録表を記入・活用し，「㋐授業の予習復習を軸とした学習計画を立てる　㋑主体的に取り組む　㋒振り返り新たな計画を立てる」というサイクルの確立を支援する。 ・課外・小テストなどを適切に設定し，個に応じた学習指導に努める。 ・二高生として品位ある行動がとれるように指導する。	B		
	３ LHR・総合的な学習の時間・特別活動等の活用(４①②③５①②③)	・白百合セミナーを通して，多様な歴史や文化を受容できる力を育成する。 ・道徳プラスを通して，規範意識を高め，協同する姿勢を育む。 ・特別活動への積極的な参加を支援し，活動の意欲を喚起し，協調性やリーダーシップ等を育てながら，学校生活の充実を図る。 ・調査や発表に取り組むことで，論理的思考力やプレゼンテーション力を養成する。	B		
第３学年	１ 進路目標の明確化と進路希望の実現(1③，6②)	・面談や進路講演会等を通して目標の確認・修正を行い，進路希望実現への意識を高める。 ・模擬試験の結果を分析し，進路選択の指導・助言に活かす。 ・進路指導部と連携し，的確な入試情報を提供し，意識の高揚と意欲の喚起を図る。 ・情報の共有と公平性を確保する。	A	A	・３年間を見通した綿密な学習計画を個に応じて立てさせ，課題や小テストに頼らない学習方法を確立する。 ・柔軟性に乏しく苦手意識が強固な生徒が多い。個に応じた苦手克服のための取り組みに対する評価を考える必要がある。 ・周囲からの期待を過剰に感じ，物事をうまく運べなくなってしまう生徒に対して，学校外のあらゆる活動を体験する機会を増やし，自分だけの価値観を育てる必要がある。
	２ 自学自習力の育成と学力向上(2①②，3③)	・「管理手帳」を活用し，自分に必要な学習に計画的に取り組むよう支援する。 ・常に効率的な学習をしているかどうか，生徒本人に自己評価をさせる指導を行う。 ・学習室を積極的に利用させ，学習時間の確保を図る。	B		
	３ 心身の健康と成長(5①②③,6①②③)	・危機管理意識を徹底させるとともに，客観的視点に立ち物事を前向きに捉えられるよう継続的な指導をする。 ・学年集会・ＨＲ・授業・個人面談等を通して，きめ細かな指導を継続的に行う。	A		
	４ 特別活動等の充実(4①③,7②③)	・最高学年としての自覚を持たせ，高校生活の集大成として諸活動へ意欲的に参加できるよう環境作りをする。 ・文化祭やクラスマッチの実行にあたり，リーダーシップを発揮し，中心となって活躍できるように支援する。	A		

※　具体的目標の後のかっこ内の数字は，１ページの学校の重点目標１①～７③との関連を示す。

※　判定基準：A… 非常に良くできた　B… 良くできた　C… 普通　D… やや不十分　E…不十分